

水稻山 教学寺（箕面市）

「誰にでも親しんでいただけのお寺になること」

をモットーとされる「水稻山 教学寺」。

箕面市稻の旧西国街道沿いに構えられた「水稻山 教学寺」は
浄土真宗本願寺派で阿弥陀仏を本尊とされています。

天文元年（1532年）に三島吉左エ門が本願寺十世證如法主に師事し、
剃髪して「教惠」と法名を名乗り、天文元年8月に道場を創立。

その後、元禄2年（1689年）四世住職榮玄が

本願寺の認可により教学寺とし、檀家の協力を得て建立されました。
ところで、誰もが一度は飲んだことがある初恋の味「カルピス」。

そんなカルピスは教学寺にゆかりがあります。

カルピスの生みの親「三島海雲」は教学寺の十三世法城の長男として生まれ、
13歳で得度し、本願寺文学寮（現在の龍谷大学）を卒業。

境内には創建当時の瓦やカルピス発売100周年（2019年7月7日）の
記念として植樹された吉野桜、三島海雲翁顕彰碑があります。

季節の花々が咲き、鳥たちのさえずる声、
自由に飛び交う虫たちが彩りを添えています。



三島海雲の直筆の書

この書「天行健」は、カルピスの創業者である三島海雲の直筆です。三島海雲はこの語を度々揮毫（きごう）され、カルピス社内に残っているものの一つが贈呈されたものです。

—天行は健なり。君子、以って自ら彊（つと）めて息（や）まず— 「易經」より

また右上に押された印、冠冒印には「不焦不怠」（焦らず怠らず）とあります。これは三島海雲の座右の銘であったのかも知れません。



カルピスの水玉模様は七夕が由来

カルピスのパッケージに使用されている水玉模様は、カルピスの発売日が7月7日「七夕」であったことから「天の川の銀河の群星」をイメージした水玉模様に。1922年（大正11年）当初は青地に白色の水玉模様でしたが、戦後は現在の白地に青色の水玉模様となりました。



Instagramもご覧ください。 ID:kyougaku_ji

毎日1篇、住職の100文字法話を坊守が一筆箋に書かれ
Instagramにアップされています。